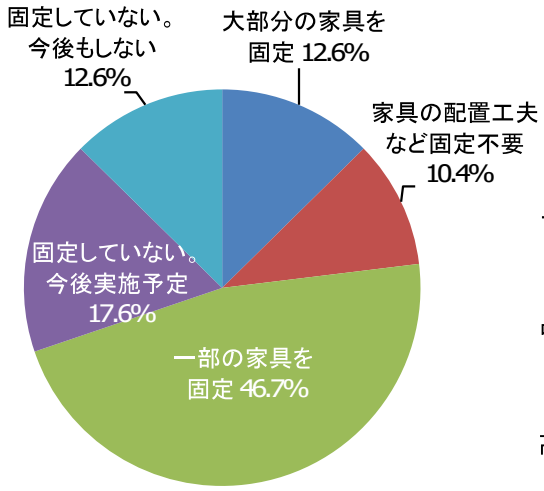
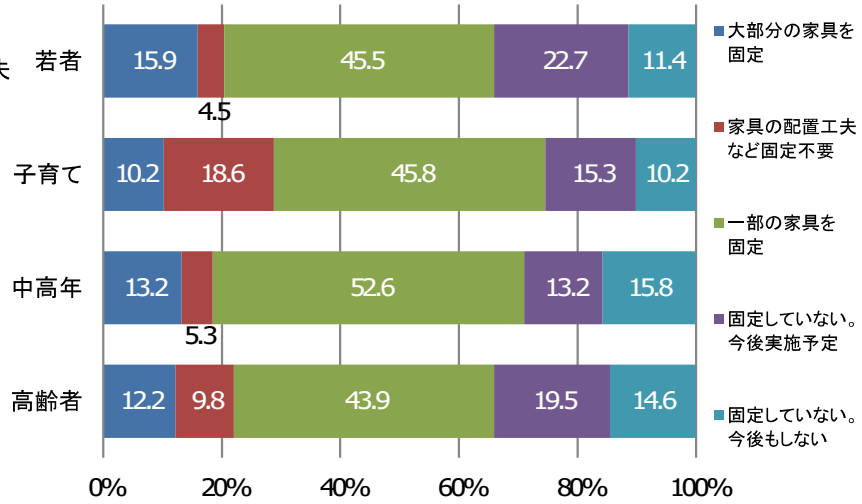
＜災害への備えについて＞

■問1　家具の転倒防止対策の実施　（N＝182）

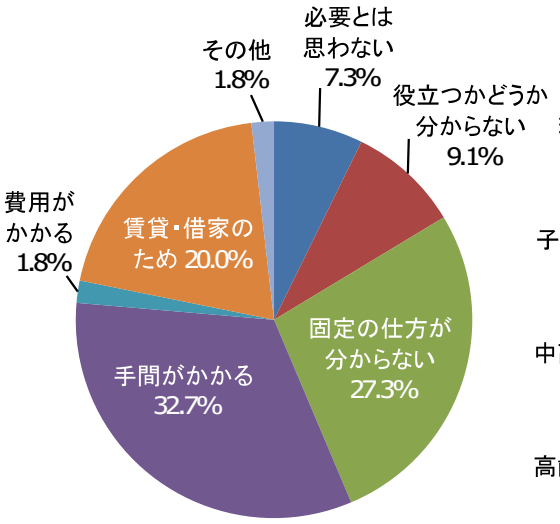


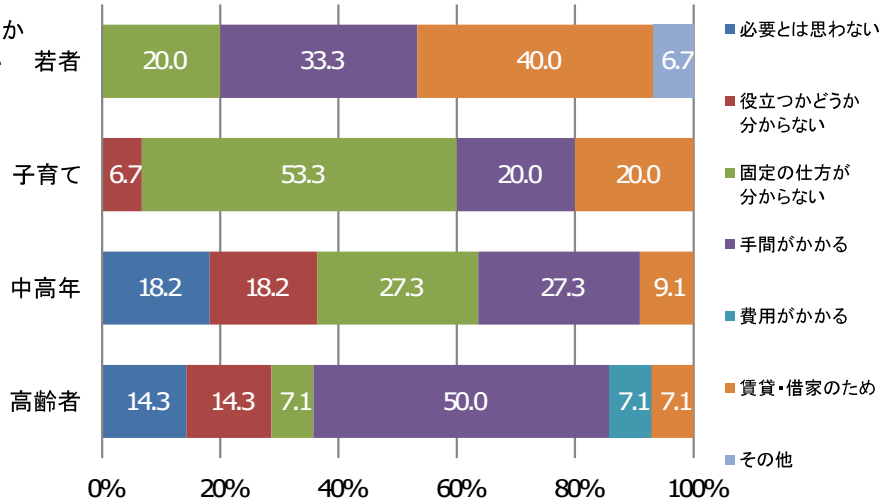


- 家具の転倒防止対策の実施については、『固定している』（「大部分の家具の固定」、「家具の配置工夫など固定不要」と「一部の家具を固定」の合計）が約7割となっています。
- 世代別にみると、全ての世代で約7割が『固定している』と回答しています。

■問2　家具を固定しない理由　（N＝55）

（問1で「4　固定していない。今後、実施しようと思っている」「5　固定していない。今後も実施しようと思わない」と回答した方）





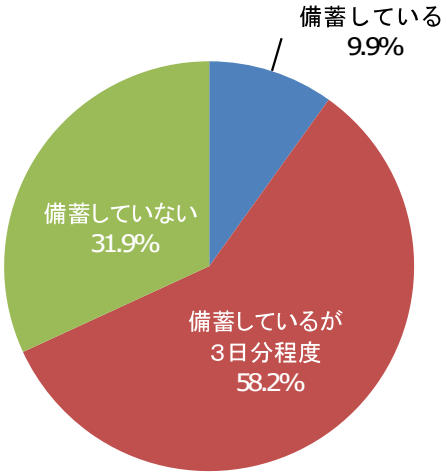
■その他意見

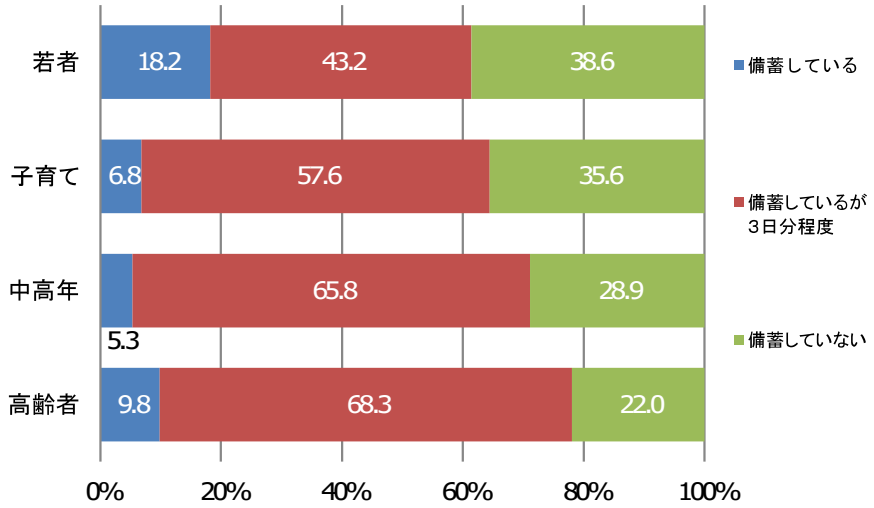
・壁に穴をあけたくない

- 家具を固定しない理由については、「手間がかかる」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、中高年・高齢者では「手間がかかる」が最も多い回答となっていますが、若者では「賃貸・借家のため」が、子育てでは「固定の仕方がわからない」が最も多い回答となっています（中高年では「固定の仕方がわからない」も同率）。

■問3　7日以上の水や食糧を備蓄※しているか　（N＝182）

※　冷蔵・冷凍庫に保有している食品やレトルト食品、缶詰、ウォーターサーバーの飲料水など
災害時の飲料水：1人1日あたり3リットル×7日分＝21リットル

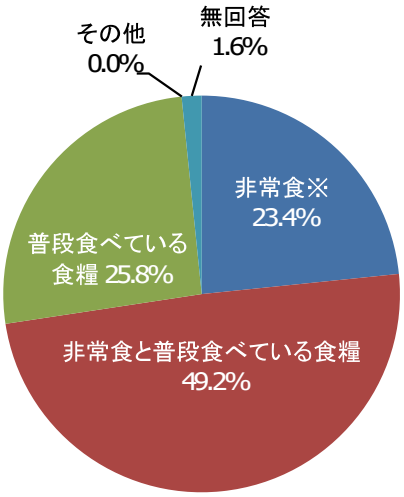


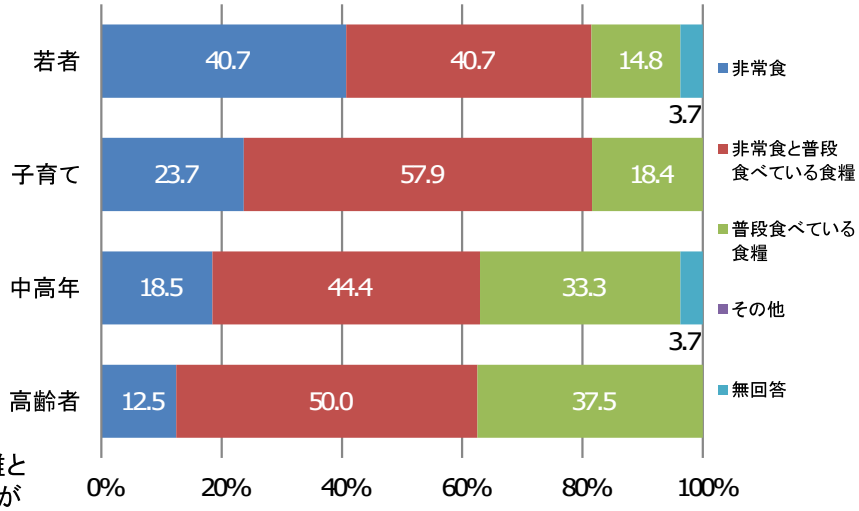


- 7日以上の水や食糧を備蓄しているかについては、「備蓄しているが3日分程度」が約6割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「備蓄しているが3日分程度」が最も多い回答となっています。

■問4　備蓄している食糧は何か　（N=124）

（問3で「1　備蓄している」「2　備蓄しているが3日分程度」と回答した方）



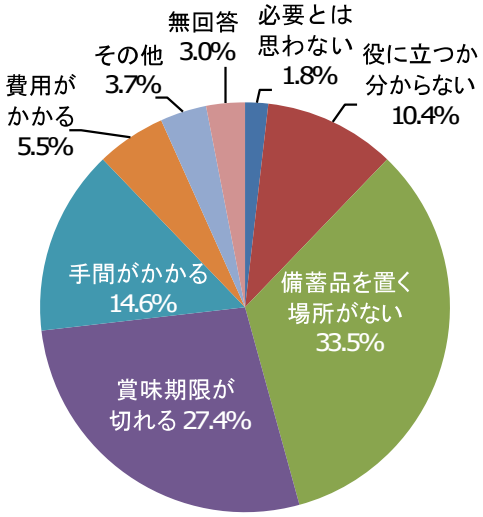


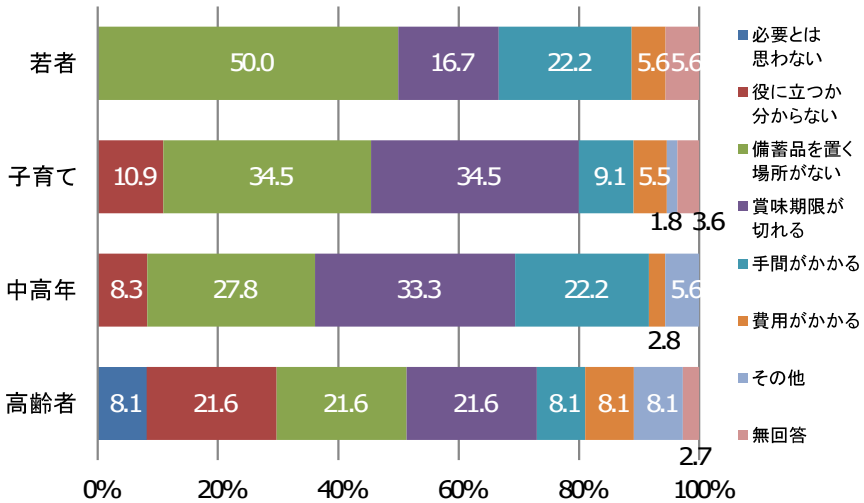
※　非常食：災害時など食糧の入手が困難となった場合を想定し作られた長期保存が可能な食糧

- 備蓄している食糧については、「非常食と普段食べている食糧」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみても、全ての世代で「非常食と普段食べている食糧」が最も多い回答となっています（若者では「非常食」も同率）。

■問5　7日分以上の備蓄をしない理由　（N=164）

（問3で「2　備蓄しているが3日分程度」「3　備蓄していない」と回答した方）





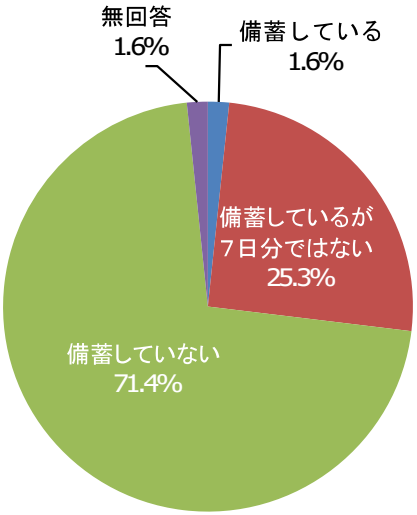
■その他意見

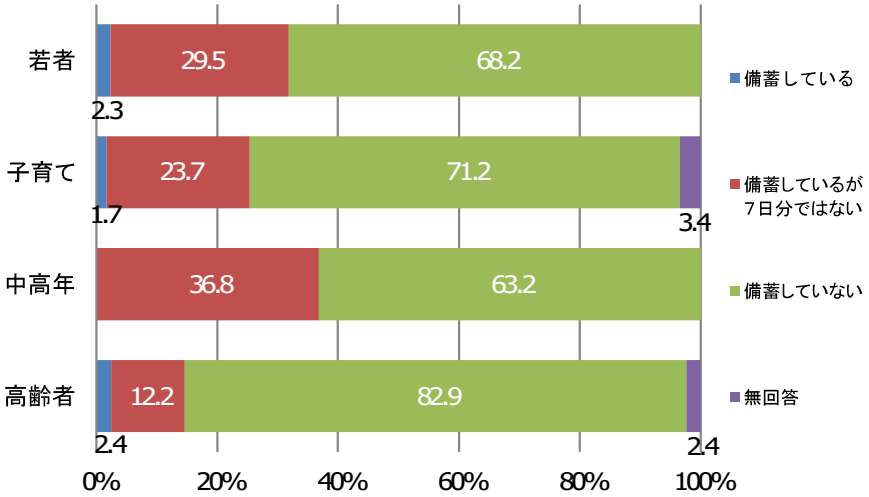
- 量が多い
- 準備しようと思っている
- 7日分以上とは知らなかった

- 7日分以上の備蓄をしない理由については、「備蓄品を置く場所がない」が約3割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・高齢者では「備蓄品を置く場所がない」が最も多い回答となっていますが、中高年では「賞味期限が切れる」が最も多い回答となっています（子育てでは「賞味期限が切れる」、高齢者では「役に立つかわからない」と「賞味期限が切れる」も同率）。

■問6　7日分以上の「携帯トイレ（便袋）※」を備蓄しているか　（N＝182）

※　携帯トイレ（便袋）：災害用トイレのうち、既存の洋式トイレに被せて用いる袋で、袋の中に吸収シートが入っているものや、袋と凝固剤を併用するものなど、さまざまな製品がある。
（1日分：1人5回分×家族の人数分）

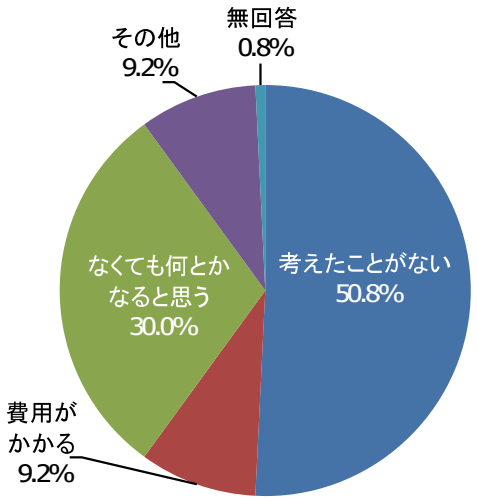


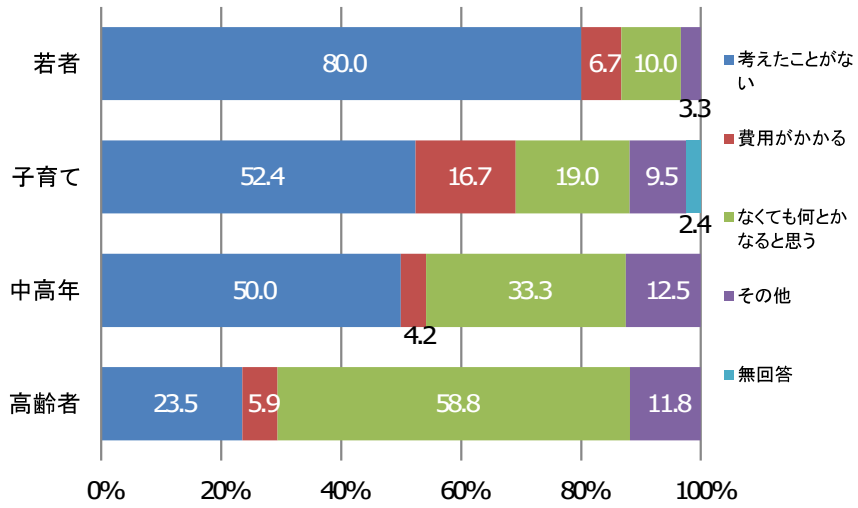


- 7日分以上の「携帯トイレ（便袋）」を備蓄しているかについては、「備蓄していない」が約7割となっています。
- 世代別にみると、若者・子育ての約7割、中高年の約6割、高齢者の約8割が「備蓄していない」と回答しています。

■問7 「携帯トイレ（便袋）」を備蓄していない理由　（N＝130）

（問6で「3　備蓄していない」と回答した方）





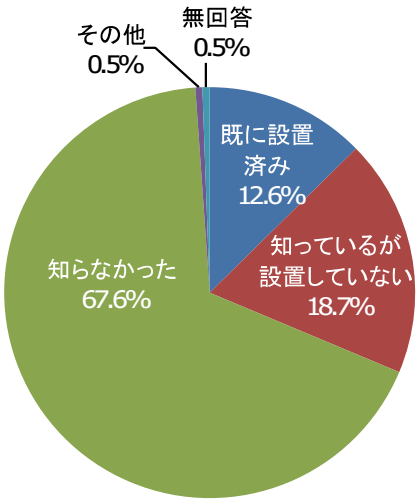
■その他意見

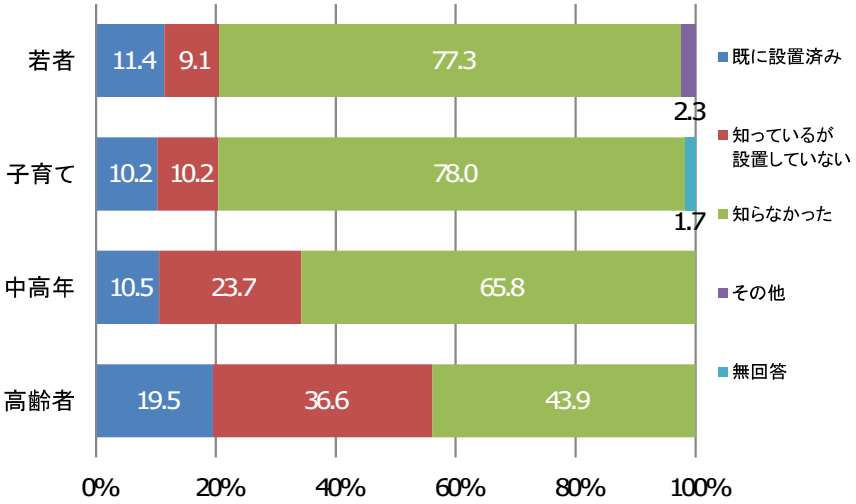
・置く場所がない
・これから備蓄する予定

- 「携帯トイレ（便袋）」を備蓄していない理由については、「考えたことがない」が約5割と最も多い回答となっています。
- 世代別にみると、若者・子育て・中高年では「考えたことがない」が最も多い回答となっていますが、高齢者では「なくても何とかなると思う」が最も多い回答となっています。

■問8 「感震ブレーカー※」の認知度　（N＝182）

※　感震ブレーカー：地震発生時に設定値以上の揺れを感知したとき、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具。感震ブレーカーの設置は、不在時やブレーカーを切って避難する余裕がない場合に、電気火災を防止する有効な手段となる。

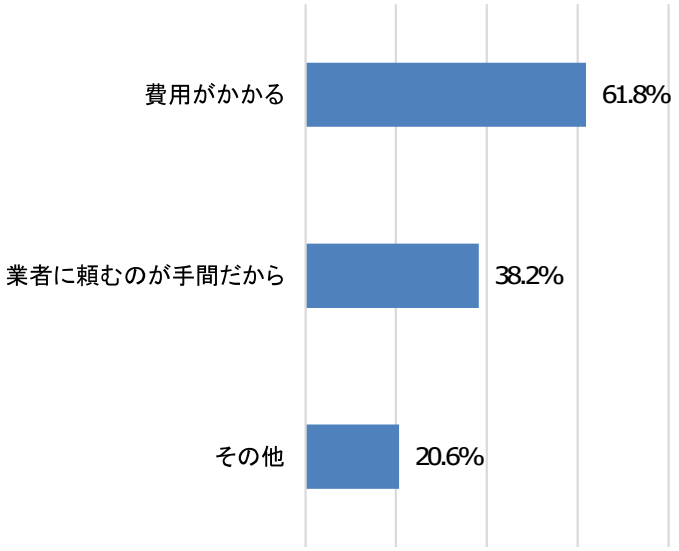




- 「感震ブレーカー」の認知度については、「既に設置済み」が約1割となっています。
- 世代別にみると、おおむね世代が高くなるにつれて「既に設置済み」の回答割合が高くなっています。

■問9 「感震ブレーカー」を知っているが設置していない理由 （N＝34 複数回答）

（問8で「2 知っているが設置していない」と回答した方）



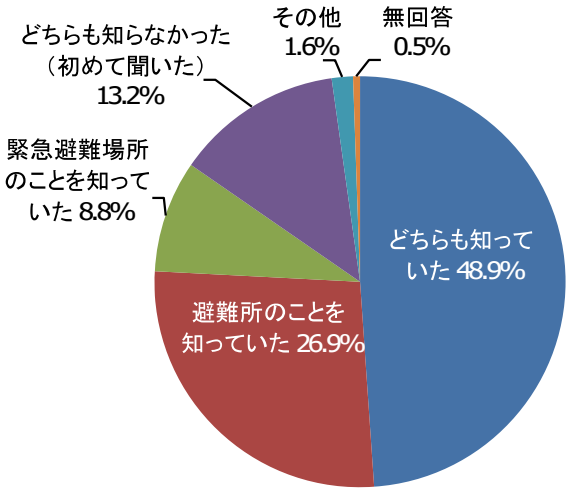
■その他意見

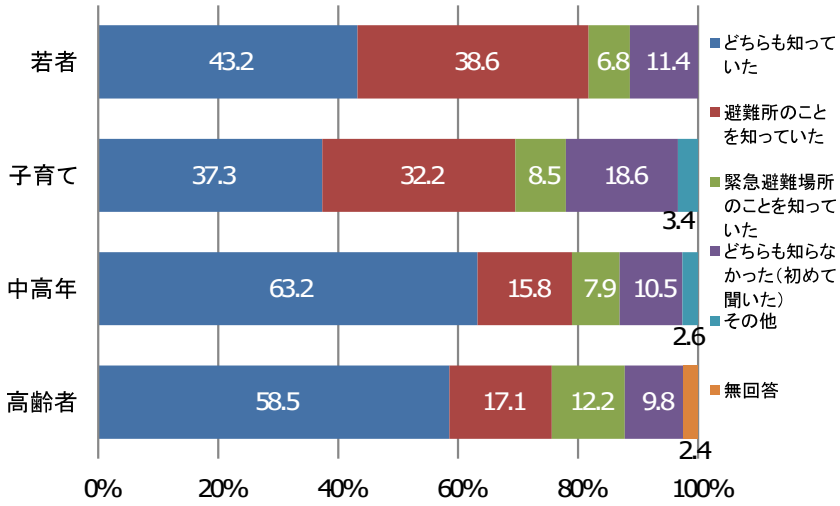
- 今後設置するつもり
- 賃貸のため
- 設置の仕方がわからない
- 必要性を感じない
- 考えたことがなかった

■ 「感震ブレーカー」を知っているが設置していない理由については、「費用がかかる」が約6割と最も多い回答となっています。

■問10 「避難所※1」と「緊急避難場所※2」の認知度 （N＝182）

※1 避難所：自宅の倒壊などにより生活が困難となり、一定期間滞在して避難生活を送る場所。
※2 緊急避難場所：災害が起きた場合や起きそうな場合に、命を守るためにまず一時的に逃げる場所。





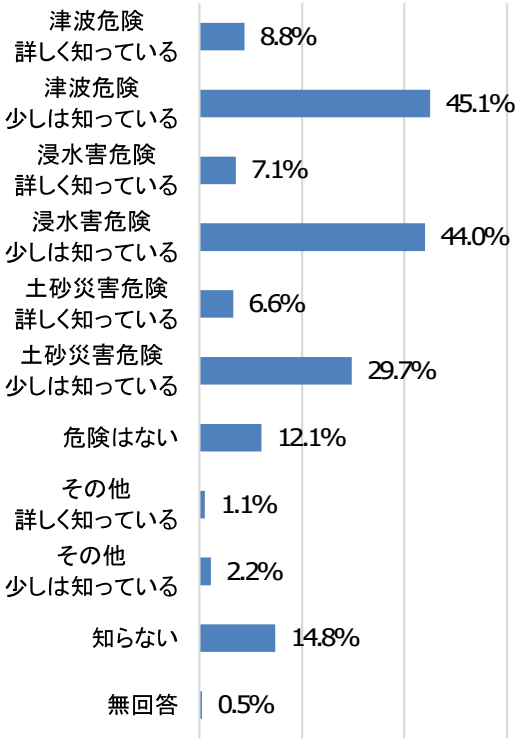
■その他意見

- 言葉は知っていたが、違いや場所は分からない

■ 「避難所」と「緊急避難場所」の認知度については、「どちらも知っていた」が約5割と最も多い回答となっています。

■ 世代別にみても、全ての世代で「どちらも知っていた」が最も多い回答となっています。

■問11　住んでいる地域に想定されている災害の危険の認知度　（N＝182　複数回答）



（%）	中区	東区	西区	南区	北区	浜北区	天竜区
津波危険 詳しく知っている	11.1	3.4	8.0	9.1	14.3	12.5	-
津波危険 少しは知っている	42.2	48.3	60.0	68.2	19.0	50.0	18.8
浸水害危険 詳しく知っている	8.9	3.4	4.0	13.6	14.3	4.2	-
浸水害危険 少しは知っている	37.8	51.7	52.0	59.1	19.0	58.3	25.0
土砂災害危険 詳しく知っている	11.1	3.4	-	-	9.5	4.2	18.8
土砂災害危険 少しは知っている	26.7	20.7	40.0	4.5	33.3	37.5	56.3
危険はない	13.3	6.9	12.0	-	42.9	8.3	-
その他 詳しく知っている	2.2	3.4	-	-	-	-	-
その他 少しは知っている	2.2	3.4	-	4.5	-	4.2	-
知らない	17.8	24.1	8.0	4.5	9.5	12.5	25.0
無回答	2.2	-	-	-	-	-	-

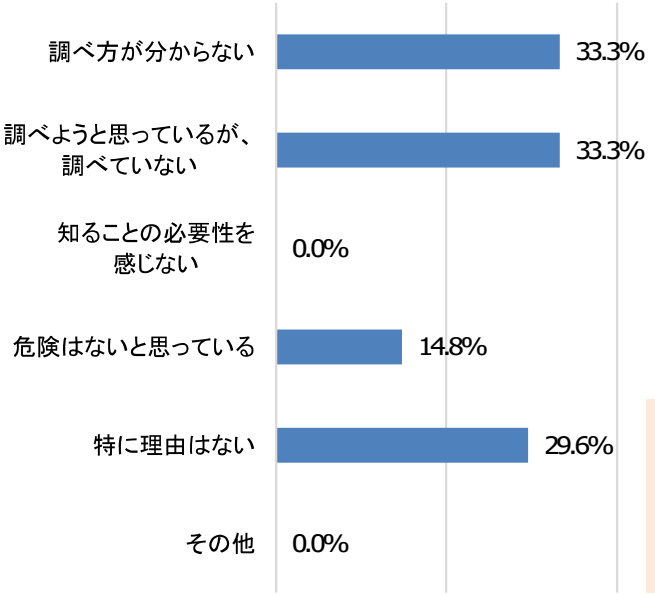
■その他意見

・液状化現象

- 住んでいる地域に想定されている災害の危険の認知度については、『津波危険を知っている』（「詳しく知っている」と「少しは知っている」の合計）と『浸水害危険を知っている』が約5割となっています。
- 居住区別にみると、中区・東区・西区・南区・浜北区では『津波危険を知っている』と『浸水害危険を知っている』の回答割合が高く、天竜区では『土砂災害危険を知っている』の回答割合が高い一方で、北区では「危険はない」の回答割合が高くなっています。

■問12　住んでいる地域に想定されている災害の危険を知らない理由　（N＝27　複数回答）

（問11で「10　知らない」と回答した方）



- 住んでいる地域に想定されている災害の危険を知らない理由については、「調べ方がわからない」、「調べようと思っているが、調べていない」と「特に理由はない」が約3割となっています。